Seiyo Assembly

西予 議会だより



特集

小さくてもきらりと輝く町　城川 ⑫
温暖化対策費計上（定例会） ②
高期高齢者制度って？ ④
急がれる限界集落対策 ⑤
一般質問 ⑧
議会のニューフェイス ⑭
市民の放課後 ⑮

第17号
6月
定例会
2008

2008.7.20発行

西予議会だより　第17号　http://www.city.seiyo.ehime.jp/gikai.html　E-mail gikai-chousa@city.seiyo.ehime.jp

夏!!プール始まる（宇和町小学校）

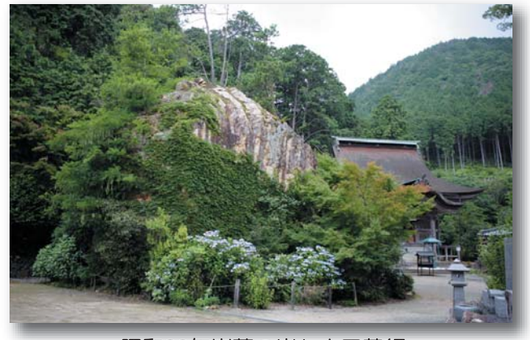


西予市の風景



棚田の風景

わが町の取って置きのスポット



昭和38年崩落の岩と山田薬師

思い出のアルバム

宇和町田之筋地区



昭和46年

現　在



田之筋地区の中心地、右に公民館、消防団詰所、その後に郵便局二階の屋根が見える。道路をはさんで左に二階建の農協、手前に駐在所があった。昭和四十六年頃の風景で、県道の拡張工事が進められている。

編集委員の眼

これまで議会だよりでは市内の公共施設についても取り上げてきましたが、その運営形態はまちまちです。例えば保育園は、市直営のものと施設協会の運営など私立のものがあり、同じ町の中で見かけは同じでも経営形態や職員の処遇などが全く異なっており、今後それにどう対応していくかが課題です。

これからは、行政のスリム化を図るため行政が関係する公共施設のあり方について見直しが必要となってきています。学校などについても近々再編案が検討され答申されてきます。そのような行政サービスの見直しについて、住民がどう受け入れて対応していくのか、行政と共に考えていかなければならない時代がやってきているのです。



養護老人ホーム　奥伊予荘

編集委員会

メンバーが新しくなりました。一年間よろしくお願いします。



編集委員

◎委員長　浅野　忠昭
○副委員長　兵頭　学
委員　元親　孝志
委員　宇都宮明宏
委員　松山　清
委員　明智　祥勝
委員　二宮　一朗
委員　兵頭　竜

発行／西予市議会　編集／議会だより編集委員会　発行責任者／梅川光俊　〒797-0015 西予市宇和町卯之町三丁目434-1　TEL0894-62-6413

必修化時代！！

6月16日から11日間の会期で、第2回定例会が開催されました。今回の主な議案は、条例改正6件、規約の変更1件、予算関係では一般会計、特別会計、企業会計等11件の補正予算、平成19年度一般会計継続費繰越計算書報告2件、繰越明許費繰越計算書報告2件、指定管理者の指定2件の24件と陳情1件を審議いたしました。

なお、総務・厚生・産業建設の各委員会ともに関係所管事項について市内視察研修を実施いたしました。



完成した二及漁港利用調整施設

一般会計の主な補正

総額1千743万円補正

一般会計は、今回1千743万2千円を追加し、総額で232億5千143万2千円となりました。

（民生費）

社会福祉総務費
570万8千円
地域福祉計画、第2期障害福祉計画、第4期介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画策定にかかる経費

（衛生費）

環境衛生費
290万円
平成20年度から24年度までの地球温暖化対策の実行計画を作成する経費

（農林水産業費）

農業振興費
128万8千円
西予市農林水産物ブランドづくり推進事業実施要領に基づいてブランドづくり支援のための補助金

（教育費）

語学指導外国青年招致事業費
256万7千円
小学校で平成23年度から実施される外国語の必修化に備えるために英語指導助手を増員する経費

文化財保護費
600万7千円
宇和町山田地区における埋蔵文化財発掘調査の調査報告書を発刊する経費

文化施設運営管理費
1千57万8千円
宇和文化会館の舞台照明設備修繕、舞台吊物設備ワイヤーロープ交換、ピアノ庫屋上防水補修工事費



デズモンド（ＡＬＴ）の授業風景



山田地区埋蔵文化財 発掘風景

議長就任あいさつ

西予市議会も二期目に入り、五月の臨時議会で、議長に就任致しました。

市議会にも、新しい動きもあり、改革前進の時ではないかと思います。三位一体の改革で中山間地域はいかんともしがたい状況にあります。何としても一次産業の振興がなければ西予市は成り立っていかないのが現実であり、議会・理事者・職員そして市民が協働し合って、それぞれの持分を生かしながら頑張っていきたいと思っています。

また、新庁舎建設、ＣＡＴＶ事業も仕上げの時期に来ています。情報公開を原則として、市民の皆様に理解をして戴きながら取り組んで参ります。市民に最も近い存在としての議会でありたいと思っております。

市民の皆様方のご意見を宜しくお願い致しまして、ご挨拶と致します。



坂本副議長　　梅川議長

議会活動報告

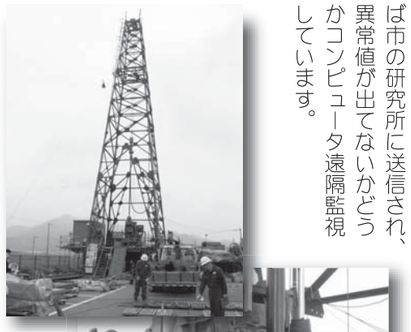
南海地震

予測のための観測施設を視察

30年以内に50％の確率で発生すると予想されている南海地震に備え、**独立行政法人『産業技術総合研究所』**の研究グループが、宇和町石城地区で行っている地震予測施設を、本会議終了後、視察しました。

地震発生の直前には地下水位が下がるとされており、同グループは、30Ｍ・200Ｍ・600Ｍの井戸を3本掘り、最深部に付けた水位計で観測を行っています。

観測データは専用電話回線を介して、常時つくば市の研究所に送信され、異常値が出ないかどうかコンピュータ遠隔監視しています。







地震予測の説明を受ける議員

議会日程　6月

16	月	本会議（開会）
17	火	一般質問・質議
18	水	常任委員会
19	木	⇐
20	金	⇐
21	土	休会
22	日	⇒
23	月	⇒
24	火	⇒
25	水	⇒
26	木	本会議（閉会）

国・地方の財政難が随所に顕在化

質疑

当初予算が総計予算主義のため補正は最小限

後期高齢者医療制度 市の減免措置は

問 国保から後期高齢者に移行して、安くなった割合は？

答 対象者は9千100人。個別の試算はしていないが、75才以上では、年金額201万以下は安くなり400万以上は高くなっています。

問 後期高齢者医療保険保険料は？

答 愛媛県の概算の負担額は5万5千320円・西予市は3万6千484円になります。

問 資格証明書発行要件は？

答 見直し案によると、相当な収入があるにもかかわらず保険料を納めない悪質な者に限って適用します。

問 後期高齢者医療制度の、西予市独自の減免措置は考えられないか？

答 愛媛県後期高齢者医療広域連合として取り組んでいるため、西予市独自での減免措置は出来ません。

ケーブルテレビ見通し

問 CATVの予算が減額されているが、今後の計画遂行の見通しは？

答 総務省と農水省の補助金の按分が要因であり事業計画に問題はありません。

問 事業成功のためには加入率が重要だが、民間企業だけで大丈夫か？

答 加入率の目標を60％としている。今後、職員への説明会や、地区への出前講座を推進する。経営は、あくまで企業が中心であり開設後4年目の黒字転換を目指します。

これからの教育は

問 教育長就任に際しての基本方針は？

答 西予市教育委員会が策定している「教育基本方針」に則り、教育行政に取り組みます。

問 ALT2名の配置計画は？

答 現在の3名は、三瓶・明浜・宇和中学校なので、野村・城川中学校に配置します。

・・・・・

問 乙亥の里条例に関連して、市内4カ所の温泉施設の委託料や指定管理者制度の見直しは？

答 第3セクターのあり方としては、財政面だけではなく地域の産業や雇用に寄与していることから、許容範囲だと考えます。

問 今年度の、農村環境保全向上活動支援事業の対象地区は？

答 神領・明間中組・野村西・伏越・町中の5地区です。



料金が上がるカロト温泉

急がれる限界集落対策

総務常任委員会

一般会計

Q CATV事業費の減額の理由は

A 総務省と農水省の補助金との関係、宇和町内の都市計画区域の関係で、今年度の事業範囲の内、れんげ・永長地区が来年度になる予定です。

Q 中学校費のうちの工事請負費の内容は

A 三瓶中学校の周辺住民への防砂対策として、植栽やネットを設置するものです。

Q 文化振興費の工事請負費の内要は

A 宇和文化会館の防水工事や舞台・照明等の付け替えです。

Q これらの中で市内で対応出来る事は、地元を優先して発注すべきではないか

A 内容を吟味して、その方向で検討します。

Q 保健体育費のうちの委託料500万円は適正か

A 皆江の皆楽園建設に伴う代替地グランドの整備に関する設計委託料です。



田之浜小視察（明浜町）



惣川の住民との意見交換（野村町）

所管事務調査

Q 新庁舎建設事業費の拡大により一般財源や起債の償還の目途は立っているのか

A 起債の償還については合併特例債なので償還額は3割強であり、償還年数を考えると、単年度支払額は財政を圧迫する額ではありません。

一般財源については、基金をあと1億円程度追加して約7億円にした上で、一般財源の額を減らすよう努力する事により対応します。

Q 限界集落対策として、行政のサービス向上と経費削減、更には地域の活力を再構築する意味において、総合支所の人員を大幅に減らしてでも、周辺の公民館への積極的な人員配置をする時期が来ているのではないか

A 前向きに考える方法論もあり、また一自治体だけで解決できない面もあるので、行政とともに議会においても、国に実状を説明するなどの行動をして欲しい。

西予市に9千100人の後期高齢者!!

厚生常任委員会

6月18日から20日までの3日間、一般会計補正予算などの議案審査と厚生常任委員会が所管する施設の視察を実施しました。し尿処理場は、設備の老朽化が激しく早急な改善が求められています。保育園など現場の声を聞いてまわりました。

補正予算

Q　地球温暖化対策事業費の委託料とは

A　京都議定書によると温室効果ガス削減対策のために、平成20年度から24年度までの運用スケジュールを20年度までに立てなければならないので、5年間の実行計画を業者に委託しました。

Q　実行計画を職員で作成できないか

A　今現在の職員数では対応できないが、今後は体制面等も考慮しながら検討していきます。



料理実習前の保育園児

Q　西予市における後期高齢者の問題・現状は

A　現在の西予市には9千100人の後期高齢者がいます。その中で電算のミスが101人に及びましたが担当職員が対応しました。

Q　保育所の見直しはどうなっているのか

A　市内保育所の民営化の検討委員会を設けて先を見越しながら検討していきます。

Q　市立病院の今後について

A　医師不足によって病院運営に直結する問題が生じます。特に地方の医師不足が問題であり、病院の対応が遅れると、深刻化していくのは目に見えており様々な角度から対応していかなければなりません。



野村病院にて院長と対談

Q　野村病院の医療用器具費とは

A　今年度4月から6年ぶりに眼科医が常駐しました。今まで使用していた外来用の眼底カメラはポラロイドタイプの15年前のもので、今回デジタル式の眼底カメラシステムと緑内障・白内障治療対応レーザーを購入することで、患者のニーズに、より一層応えられることができます。



医師不足が深刻な宇和病院

所管事務調査

市内の所管施設を調査しました。最新の施設は大変充実した機能を発揮していましたが、一方では老朽化が進み、多くの問題を抱えながら、運営している施設も見受けられました。

委員会としても現状を把握し、しっかりとした今後の方向性を見出して、対応していかなければならないと考えております。



老朽化が著しい西部衛生センター（明浜）

野村病院に眼科開設！！



兵頭医師と眼底カメラシステム

医師　　兵頭 靖秋（38歳）
野村町出身（愛大医学部卒）
外来平均　　30～40人／日
5月の手術実績　17件（5/12～5/31）

医師になったきっかけ‥子供の頃目が悪く、バスで吉田病院に苦労して通院した経験を持ち、そういった面を少しでも解決しようという思いから眼科医になった。
西予市に帰ってきて‥皆さんが温和であったかい。また、自然が豊かで、子供が喜んでいる。

乙亥の里条例の改正を可決

産業建設委員会

条例制定

『乙亥の里条例の一部を改正について』

原油高等の影響で、「乙亥の里」カロト温泉の経営が逼迫しているため、入浴料金を現行400円から500円に。

回数券は、11枚綴りの4千円から12枚綴りの5千円に増額を行うものです。

Q　この施設は福祉目的と聞いているが、高齢者の入浴者数とその効果は。何回か訪れたが活気が感じられない。魅力・特色のある施設とするための努力は。

A　高齢者の利用者は20年度で2万2千600人程度を見込んでいます。

活気については、指定管理者の商工会と協議を重ね、経営改善計画を出して頂いているが、指定管理者と事務担当者との関係がスムーズに行っていないのが現状です。

20年度は、行政と指定管理者とでよく検討を重ね、利用客を増やすよう鋭意努力をしてまいります。

所管事務調査

今年度は旧町を順番に廻り、それぞれの町が抱える諸問題について、調査研究をすることとしました。

「野村町の農業」

野村町は昭和30年の合併以来、『ミルクとシルクと葉タバコ』の町を行政の基本に位置付け、発展してきました。

しかし厳しい社会変動の中で、まずシルクが化学製品の普及でだめになり、続いて葉タバコが生産調整になり、頼みの酪農、畜産業も牛乳の消費者離れに伴う価格の低迷、それに追い討ちを掛ける粗飼料の高騰で、廃業も選択肢の一つという大変厳しい現状に直面しています。

（酪農家の現状）

農家の説明によりますと、野村町の平均搾乳頭数は1農家当たり30頭で、搾乳牛1頭あたり、月に360kgの配合飼料が必要です。

平成18年と20年を比較すると配合飼料に乾草飼料、パイプライン等の燃料費を加えると、月額11万6千600円が新たな農家負担になっていると言われました。

［対策］

市もこのような事態を憂慮し、畜産産地粗飼料流通緊急支援事業補助として、1kg当たり15円を補助することで、農家負担を軽減しています。

農家から感謝の言葉を戴きましたが、このような現状に対して、今後更なる支援策を講じる必要性を感じました。

（キュウリ・ナスの栽培概要）

西予市においては野村地区を中心に「キュウリ」が栽培され、国の指定産地になっています。しかし現状は過疎化・高齢化が深刻な状況にあり、安定的かつ継続的に生産者を確保することは、極めて厳しい状況にあるとの報告でした。



酪農家視察（野村町）

選果場では、生産者がこの施設を利用すると、販売価格の4割が施設経費として天引きされ、さらに、苗代・肥料・農薬等が必要であり、最終的には価格の7割が生産コストになり、農家の収入は市場価格の3割程度しか見込めないとのことでした。

［対策］

キュウリは国の指定産地になっているので、品質管理・生産者履歴等を徹底し、キュウリの差別化を図る商品のブランド化を目指してはどうかと提案しました。いずれにしても厳しい農業の現実を垣間見た感が致しました。

（公共施設の管理運営）

シルク博物館は現在常設展示場2室と染色講座室、製糸工場が稼動をしています。

博物館の主な収入は入館料とシルクの売り上げ、染色講座の受講料であり、市の一般会計からの繰り出しは、概算年間2千400万円です。

館長の意見として、シルク博物館の今後の課題は、光熱費を抑制するために電気のデマンド方式を採用して、経費削減を行なうこと。

2点目として施設の経営形態は、あくまでもシルク博物館として伝統文化の継承館として運営していくのか、それとも収支決算を重視した民間的経営を行なうのか、理事者の決断が必要であるとのことでした。

一般質問





限界集落行政の本領発揮を
庁舎内にプロジェクトを設置

問 限界集落の地域再生を考えるには、地域課題を政策化する、集落のリーダーが絶対必要である。地域と行政が一体となって取り組んでいく必要を感じるが考えを伺いたい。

市長 今年度を限界集落問題の調査・研究機関と位置づけ、庁舎内に事務横断的なプロジェクトチームを設置し、検討作業を進めてまいります。

問 限界集落問題は、国の制度上の問題である。安心をして農業を営むことが出来る、最低所得補償。これを国と交渉していかなければならないと思うが考えを伺いたい。

市長 全国の自治体仲間と連携しながら、国としての支援体制、所得確保制度の整備等について、機会ごとに、国・県に対して、強く要望していきます。



松山　清 議員

年金問題自治体の責任はないのか

問 今回の年金問題は、社会保険庁がすべて悪いということになっているが、当時の市町村には、落ち度は無かったのか伺いたい。

福祉部長 平成9年に1人1番号の基礎年金番号が用いられるようになり、年金加入該当者に郵送で通知され、年金加入者はそれまで加入し付番されていた年金番号を記入し、返送していただくようになっていましたが、その時点で同一人に割り当てられた複数の年金番号の未統合による電算入力ミスが原因と思われます。

年金問題から市民を守れるか

問 今回の年金問題で、市民の財産が不当な取り扱いを受けようとしている。生命財産を守らなければならない市長として、この問題をどのように受け止め、どのようにして市民を守っていくつもりなのか伺いたい。

福祉部長 国民年金に関する各種請求、資格取得・喪失届、各種免除及び猶予申請等、年金事務の適正な執行管理に努めます。窓口業務についても、年金加入者へのきめ細かな説明で対応してまいります。



戸惑う年金窓口

観光で町おこしを

問 世界を見ると、観光は国の収入として大きな役割を担っていることに気づく。西予市においても、観光という視点で町づくりを検討してはどうか。

産建部長 「イベント型観光から企画提案型観光への転換」すなわち情報発信の組織化や、旅行エイジェントとの連携を強化することによって、この西予市のもつ、様々な素晴しい素材を観光資源として捉えなおし、待ちの姿勢から、売り込みの姿勢への転換を目指して行く考えであります。

31→24
2期目スタート！



マイカー通勤 CO_2削減は
市が率先して取り組む

問 京都議定書では温室効果ガスの削減目標を定めているが、西予市でも幹線ルートの通勤バスを走らせ、職員のマイカー利用を最小限にするなど合理的な通勤の手段を考え、目標を定めてCO2削減に取り組む必要があるのではないか。

副市長 「ノーマイカーデー」の設定や相乗り、通勤バスなど有効的な通勤手段があります。地球温暖化防止に市が率先して取り組み、可能なことから実施します。



マイカー通勤を減らせ

生ゴミ減量でCO_2削減を

問 これまでは分別により資源ゴミを取り出し、ゴミ処理費用を削減してきたが、今後は生ゴミの焼却処分を削減し、バイオマス化や堆肥化などの処理方法に取組むべきではないか。

福祉部長 生ゴミの水切りの機などの補助金の活用の啓発に努めると共に、市の財政負担や八幡浜ブロックごみ処理広域化計画と合わせてバイオマス化や堆肥化について総合的に検討してまいります。

市営住宅の維持管理は

問 市営住宅の利用や修理の状況は、今後どういう方針で維持管理をしていくのか。

産建部長 現在の戸数は900戸でそのうち耐用年数を超過した老朽住宅が221戸あり、入居率は92.2％で830戸が入居しています。修理件数は、昨年度257件であり、「今年度西予市住宅マスタープラン」を策定し、建替・維持保全などしていきます。

今後の資源リサイクルの方針は

問 資源リサイクルについて市内に分散して中間処理を実施しているが、もっと広域で施設の充実を計るなど将来への方針について伺いたい。

産建部長 資源ゴミの処理を効率化するためには、広域圏での処理が不可欠ですが、まだ検討していません。資源ゴミは貴重な収入源となるので、効率的かつ効果的な西予市独自の資源リサイクルの処理体制構築について一定の方針を打ち出したいと考えています。

西予市版・夜スペシャルの検討は

問 東京都の杉並区立和田中学校では、進学塾へ通うことができない生徒を割安のコストで学習指導する夜間塾が始まったが、西予市ではそのようなニーズをどう把握しているのか。

教育部長 市内の中学校では、補習を行っており、生徒や保護者から要請はありません。さらに学びたい生徒は通塾しており、導入の予定はありません。



城川清掃センターでの手作業による分別作業



酒井 宇之吉 議員

Q マニフェスト実現の対策は 市民の理解が鍵

問 市長は従来の選挙公約から一歩進んだマニフェストの手法を取り入れて「6つの西予づくりと28の政策」を提言された。政策実現のためどのような対策を考えているのか。

市長 今後の西予市政において大切なことは、政策を提言して、住民の皆様にいかに納得していただくかが課題です。従来の選挙公約は、願望の提示でした。それに対してマニフェストは「実行期限、財源、方法」を示し、政策の具体性をより明確に判断できるようになっています。計画・実行・進捗チェック・評価・マニフェスト改善のサイクルにより、政策の確実な実行、その定められた期限内の進捗率チェックと評価、その結果に対して政策の実行期間や内容の見直しを行い、最終的に市民の皆様の評価とご批判を頂戴することになります。

それぞれの地域が輝き
市民が納得する西予市に



三瓶幸二2008マニフェスト

市長マニフェスト

火災報知器って？

問 消防法の改定により一般住宅への設置が義務化された。設置期限、義務違反の対応、市補助金及び共同購入について伺いたい。

消防長 新築住宅については、平成18年6月1日から設置が必要となり、既存住宅では23年6月1日から設置義務が発生します。個人住宅にかかる防火規定は、住宅用火災報知器が未設置でも罰則等の規定はありません。補助金は本年度から3ヵ年の事業として、当初予算に700万円を計上しました。補助金総額は2千110万円を予定。補助事業は共同購入を前提として、各地域の区長・組長等に説明会を実施しています。地区内で購入先業者の選定、世帯ごとの購入個数などをとりまとめます。補助金の申請等の詳細手続きは相談に応じます。



火災報知器

Q 学校施設の安全・安心は 耐震化推進計画を作成



兵頭 学 議員

問 近い将来起こると予想される東南海地震に対して学校施設の耐震化の状況を伺いたい。

教育長 昭和56年以前に建築された旧耐震基準の学校施設について、平成17年度に耐震化優先度調査を実地し、この調査結果を基に、耐震化の優先度ランクやコンクリート強度により耐震化事業を進めてきました。

今後、改築又は耐震補強が必要と判断される学校施設は、小中学校で45棟、公立幼稚園で2棟、合計47棟あります。この学校施設耐震化事業の推進計画につきましては、昨年の学校教育に関する検討委員会答申及び本年7月予定の学校再編検討委員会答申を受けた後に「耐震化推進計画」を作成し、計画的に学校施設の耐震化を計り、快適で安全・安心な学校づくりをできるだけ早く実現したいと考えています。

自主防災は地域が主体で

問 災害時には地域住民が自主的に連携して防災活動を行い、被害を小さくする自主防災組織の役割は大きいと思うが、これまでの組織作りの内容と、今後の取り組みについて伺いたい。

市長 地域住民が「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚と連帯感に基づいて結成する「自主防災組織」に対して、補助金制度を設けて結成及び活動支援に取り組んでいます。明浜地区においては、結成に向けた地域住民の積極的な取り組みを総合支所及び消防本部が支援するという形で、平成18年度には既に組織率100％を達成しています。

それ以外の地区については、昨年度本庁及び各総合支所防災担当者が、自主防災組織の必要性を訴える説明会を開催してきました。

その結果、地域において自主防災組織の必要性を認識していただき、結成世帯の組織率は、昨年4月1日20.6％（組織数11）から、今年6月1日現在63.3％（組織数40）に向上しています。

今後市内の組織率100％を目指して、引き続き未結成地域で説明会を開催するなど、結成推進と育成を図っていきたいと考えています。



防災マップ検討会（野村町中筋）



二宮 一朗 議員

Q 耐震度調査の前倒しは 改正案成立で今後の対応

問 学校施設は、地震などの非常時において児童・生徒を守ると共に、地域住民の避難場所として安全性の確保が不可欠である。先の「四川・大地震」では、学校施設が倒壊し多くの児童・生徒が生き埋めになった。また、「岩手・宮城内陸地震」が「南海地震」だとしたらと、考えたのは私だけではないと思う。そこで、以下の3点について伺いたい。

① 耐震調査が必要な施設数は

② 今後の統廃合を視野に入れて実施するのか

③ 計画の前倒しは出来ないか



耐震診断か統廃合か！？（田之浜小学校）

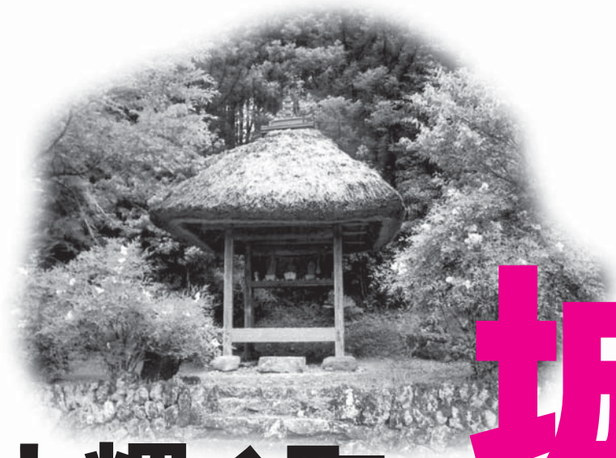
教育長 ①西予市において施設は、小・中学校、幼稚園を合わせて46棟である。②耐震化事業を行うには、今後少なくとも10年後の児童数の増減を含めた教育環境の変化を考える必要があります。本年7月に予定されている「学校再編検討委員会」の答申を受け、優先度の高いものから、改築や耐震補強といった耐震化事業を効率的に進めていきます。③耐震補強・改善事業に対する国庫補助率改正案が成立したので、事業の前倒し等、耐震化を加速させることが可能になると考えます。

交通弱者対策どうする

問 高齢化の波が急速に押し寄せているなかで、現在実施している福祉バス・温泉バス・生活バスの路線には改善の余地がある。また、三瓶・明浜地区には民間の路線バスしかなく不便をしている。また、田之浜・下泊間には何の交通手段すらない。今後予想されるスクールバスの必要性を考えれば、西予市独自の「新交通システム」の構築が必要ではないか。

市長 交通空白地域の対策として運行しているバスは、必要に応じて路線や運行時刻の見直しを行いながら対応しています。今後、交通弱者に配慮し、地域住民が利用しやすい交通体系を確立することが望まれます。明浜・三瓶は、宇和島自動車との競合路線になるため運行出来ないのが現状です。

今後は、自治体や住民・バス・タクシー事業者・NPO団体の協力のもと「ディマンド型運行」ドアツードアの「乗合タクシー」の導入も含めて検討します。



城川と輝く町

わがむらは美しく　城川の地域づくり編

旧城川町は、昭和29年3月31日に旧4か村が合併して黒瀬川村となり、昭和34年には「城川」の町名をもって、装いも新たに再出発して50年、平成16年の合併による西予市誕生までの間歴史を刻んできました。西予市誕生から5年目、この西予市の基礎を築いてきた旧町の歴史を振り返り、そして、過去・現在・未来を考えて見たいと思います。

城川5つの取組

■いらっしゃい　城川で深呼吸

【ロッジ＝宿泊施設】
　クワテルメ宝泉坊に隣接している長期滞在型宿泊施設。宝泉坊ロッジ。安くて心地よい温泉宿。三滝渓谷自然公園の中にある城川自然ロッジ。一番星がどこよりも輝いているところ。

■大陸移動を見に行こう

【地質館】
　地質館では、黒瀬川構造帯の謎を通して、かけがえのない地球の生いたちと大切さを学習することができます。太古のロマンを膨らませてみるのもまた楽しいものです。

■残そう・伝えよう　ふるさとの文化

【どろんこ祭り】
　奥伊予の奇祭「どろんこ祭り」として知られる土居三嶋神社の御田植祭りは、県指定無形民俗文化財で、田植えが終わった喜びを神に感謝し、五穀豊穣・無病息災を祈る素朴でユーモラスな田休み行事です。明治14・15年頃から始められたもので、120年以上も守られてきました。

【茶堂】
　茶堂で行われる習俗が、国選択無形民俗文化財に指定されています。
　城川の旧往還には、茶堂（ちゃどう）が54か所あります。昔は、四国遍路や通行人、集落の人々に茶の接待をしていたところから、これを「お茶供養」といい茶堂の呼び名の由縁ともなっています。

【かまぼこ板の絵】
　平成7年から全国「かまぼこ板の絵展覧会」を開催しています。本年は14回目の展覧会で、今回の作品数は、1万333点。小さなまちの小さな美術館「ギャラリーしろかわ」から発信した町の個性は、あっという間に全国をかけめぐり、展覧会をとおして、町のイメージアップと都市と農村の交流が盛んになり、元気な町を取り戻すことができました。
　昨年から、福井県坂井市との「日本一短い手紙とかまぼこ板の絵の物語―一筆啓上賞と日本一小さなキャンパスで世界一





特集　小さくてもきらり



大きな感動物語」と題したコラボレーション展を、京都市、福井市、松山市、福島市で開催し、大きな反響を呼びました。

■連携・融和のコミュニティー作り

【わがむらは美しく】
　地域単位での年4回の道つくりや河川清掃、また、建設業者・婦人会・愛護班等の団体・市職員による国県道のボランティア清掃作業など、みんなが知恵と汗をかきながら美しい地域づくりを進めています。

【城川オリンピック】
　城川オリンピックは、昭和43年に、町民相互の連帯・融和を深める目的で創始されました。その6年後の昭和49年第八回大会は、町合併20周年記念大会で、NHKテレビが「山里のオリンピック」として全国に放映し話題になりました。
　4地区の住民が仲良く、町の発展のために心をひとつにしようという城川オリンピックの精神は、いまもなお今日の地域づくりの礎になっています。

■明日も元気になーれ

【集落の実態】
　これまでの地域は、家族愛にも優る互助の精神に支えられ、また発展してきました。しかし、その集落も人口減少や高齢化などにより、地域行事等の伝承も難しくなってきているのが現状です。
　城川では、65歳以上が5割を超えている集落は、現在、33.9％ですが、10年後には88.7％になりそうです。

【みんなの元気　がんばる気】
　こうした状態の集落を昔の元気な集落に戻すことは難しいことですが、私たちが城川に残った理由、城川に来た理由、城川に帰ってきた理由はそれぞれでも、これからもきっと住み続けるであろう城川で、一人ひとりに何ができるか、今じゃないとできないこと、自分たちでないとできないことがあるはずです。山高く水清き里、人情豊かな城川、多くの人々のふるさとの地であります。たゆみない歴史の流れに思いを馳せながら、さらに新たな歴史を築いていけるようみんなで頑張っていきます。〝あしたも元気になる〟ことを信じて。



兵頭　竜





三度の選択（決断）

私は、議員の中で1番若い32歳です。32年間の人生の中で、大きな選択を3度経験しました。

まず1回目の選択は、15歳の冬、高校進学のときでした。地元である野村高校と宇和島東高校とで迷い、後者を選択しました。友人が1人もいない所へ行くのですから、大きな不安や葛藤がありました。でもそこには、新たな出会いがあり、たくさんの友人ができ、語ることのできない経験をし、今では私の貴重な財産となっています。

次に2回目。これは、結婚です。24歳のときに、高校時代の同級生と結婚しました。現在では、5歳の息子と2歳の娘がいます。言うまでもなく、私の大切な宝です。10月には宝が一つ増える予定です。

そして3回目は、今回の市議会議員選挙です。

今回のケースは今までとは違い、多くの方々の支援が必要でした。プレッシャーもありましたが、未熟な私に力を貸して下さり、議会へ送り込んで頂きました。そんな皆さんの思いを大切にして、今後の議員活動に励んでいきたいと思います。

議会のニューフェイス

二宮　一朗



「心こそ大切」

西予市合併2期目の大切なこの4年間を、議員として働かせて頂くことになり、「感謝」の思いと「責任」の重さを感じております。

私は「人それぞれ」という言葉をよく使います。一見、冷たい言葉に聞こえますが、人にはそれぞれの考え方・性格・立場があることを前提に接すれば、人に優しく出来るし相手のいいところが見つけられると思っているからです。人生50才の坂を越えてやっとそんな考えが出来るようになりました。

西予市は、5つの特色を持った町が一緒になったからこそ、自然豊かな美しい市になりました。宇和で生まれた私にも三瓶や明浜の海や大野ケ原の大自然が「自分のふるさと」と言えるようになり嬉しく思っています。また、5つの町には長い歴史の中で培われた伝統や文化があり、地域の特性を生かした産業もあります。これらが、本当に融合しお互いを認め合うことが大切だと思います。

この素晴らしい西予市の未来と市民の皆様の「安心」と「安全」な暮らしを守るために「心」を大切に「ひとりの声」を大切にして、行政とのパイプ役を務めてまいります。

最後に・・・

53才　B型　唯一の趣味・バレーボールです。

よろしくお願いいたします。



兵頭　学



さわやかな風を…

今回の市議会議員選挙では、皆様のおかげで当選する事ができました。選挙後、休む間もなく5月3日の朝霧湖マラソン大会の準備に取りかかりました。選挙期間中マラソンの準備は、すばらしいスタッフのおかげで、安心して任す事ができました。

大会には1千227名の参加があり、大変な暑さでしたが事故もなく無事終了する事ができました。

その後の反省会で、内子町の女性の方から「スタッフの皆様へ」という手紙を頂き「心温まるお世話をして下さり、頭の下がる思いでした、本当に気持ちのよい風をありがとう」と結んでありました。

このように体育指導員・体協と23年間活動した中で、先輩方のご指導や、色々の方の出会いのおかげで、今日の自分があります。

これからは、議員として住み良い西予市作りを目指して頑張りますので、皆様のご支援ご指導をよろしくお願い申し上げます。



市民の放課後

インディアカ



三瓶町インディアカのメンバーです

三瓶地域は、競技型スポーツとともに、3つのニュースポーツも盛んに行われています。

そのひとつ「インディアカ」は、羽根のついたボールを手で打ち合う、バレーボールタイプのスポーツです。ルールは6人制バレーボールに準じ、バドミントンのコートを使って1チーム4人でボールの代わりの羽根付きボールを素手で打ち合い、21点先取で競います。

4枚の羽根は滞空時間を長くすることと、方向性を高めるため、意図した方向に飛ばすことができ、しかも手で直接打つためコントロールしやすく、初心者から、熟練者まで様々なレベルの人がゲームを楽しむことが可能です。

この種目を行っている、三瓶インディアカクラブは、結成17年目を迎える県内でも屈指のチームです。平成11年10月山形県上山市で開かれた、第12回全国スポレク祭では愛媛代表として出場し、見事初優勝されました。近年では、平成17年岩手県で開催された第18回全国スポレク祭で第2位を獲得されております。



インディアカの練習

現在、会員13名により毎週火曜日、土曜日に三瓶体育館において男女合同で練習をされています。本年10月に開催される『ねんりんピック鹿児島2008』へ、2名が県選抜選手として派遣される予定で、今後も活躍が期待されます。

朝日文楽



三瓶町朝日文楽

朝日文楽のルーツを尋ねてみますと、明治初年（一八八〇年代）、三瓶町朝立に手先の器用な井上伊助という人がいて、山から木のこぶを持ち帰り、それを削って木偶の頭を作り、更に人形の胴や手足をつけて着物を着せ、人形としての形を作りました。やがてこれを一口浄瑠璃に合わして人形を動かしてみようということになり、掛小屋を作って人形芝居が公開されたのです。これが朝日文楽の起こりと言われています。

昭和三十四年愛媛県指定有形民俗文化財、昭和三十九年愛媛県指定無形民俗文化財、同時に朝日文楽無形文化財保存伝承優秀技術者として十四名（人形の部十名・大夫の部四名）の者が認定されました。昭和五十二年愛媛県指定有形無形民俗文化財に指定替えとなりました。

現在朝日文楽会の会員は28名です。職業も千差万別。週に一度の練習もままならぬこともありますが、先輩の残されたこの貴重な文化遺産を守り育て、更なる発展を期待して励んでいる朝日文楽です。